

意味の分析に関するひとつの提案

三木那由他 (Nayuta Miki)

京都大学

意味とは何なのか。P. グライスは日常言語学派の方法論に従ってこの問題を扱った (Grice, 1957; 1968; 1969; 1982)。すなわち、「意味する(meaning)」という語が用いられる／用いられない状況の条件を明らかにすることで、意味の概念分析を遂行しようとしたのである。

グライスの分析は次のステップでなされている。

- (1). 文や記号におけるような場面に依存しない意味を、場面相対的な意味によって分析する。
- (2). 場面相対的な意味を心理的概念で分析する。

こうしたグライスの分析にはいくつかの重要な特徴がある。第一に、真理条件的意味論などが意味の合成性をターゲットとしているのに対し、グライスは「そもそも意味を持つとは何なのか」を扱っている。こうした研究は、それまであまりなされてこなかったし、現在でもそれほどなされていないだろう。第二に、Schiffer (1972)によれば、グライスのこうした試みは意味に関する物理主義への第一歩をなす。というのも、(1)と(2)によって、グライスは意味論的概念を心理的概念によって分析していることになる。言い換えると、意味を心理に還元していると言える。ここでさらに心理を物理に還元する（心理的概念を物理的概念で分析する）ことができたなら、結果的に意味は物理へと還元されることとなる。シフアーによれば、これは意味に関する物理主義がとりうる有力な方法のひとつとなる。

こうした特徴から、以上のようなグライスのプログラムは、現在でも追及してみるに値するものだと思われる。とはいえ、グライス自身が提出している分析には不備があることも知られている。

グライスは場面相対的な意味を次のように分析する。

- 「話者 S は x を発話することで p ということの意味した」
iff 「(∃A)(S は次のことを意図して x を発話した：
(a). 聞き手 A が p と信じる／意図すること
(b). A が意図(a)に気づくこと
(c). A が意図(a)に気づいたことが、A が p と信じる／意図する理由のひとつとなること)」

こうした分析に対しては、その十分性に関する反例が構成できる。つまり、話者が(a)から(e)のすべての意図を持って発話をしているにもかかわらず、話者が何かを意味しているとは言い難い例が作れる。そしてこうした反例に対処するためには、A が意図(b)に気づくことをSは意図していなければならないなどとされる(意図(d))。

もちろん、反例が作れるだけではグライスの分析にとって根本的な問題とはならない。むしろグライスの分析の根本的な問題とされるのは、どれだけ意図を増やしても同様の反例がシステムティックに構築できることなのだ。つまり、上のように意図(d)を導入して反例に対処したとしても、意図(d)に関して同様の反例が構築でき、意図(d)に気づかせるという意図(e)が要請され、今度は意図(e)に関して同様の反例が構築でき……、となるのである。だとすれば、グライスの分析は無限後退に陥ることになる。

グライスのプログラムに賛同する者にとって、これは重要な問題だ。グライスのプログラムを遂行するには、意味を心理に還元するという目標と齟齬をきたさない仕方で、無限後退を避けるための方法を考案しなければならない。Schiffer (1972)では、相互知識(mutual knowledge)なる概念を持ち出すことで、こうした道を取ろうとしている。

以上のような状況を前に、本発表では意味の分析に関してシファーとは異なるひとつの提案をする。それは、聞き手の心理を分析に導入するというものだ。それにより、グライスの分析における無限後退の問題は避けられるだろう。

本発表では、グライス自身の分析を概説し、さらにその問題点を紹介する。そのうえでシファーの試みを紹介し、別のありうる代案として、聞き手の心理を用いた分析を提案する。

Grice, P. (1957), 'Meaning', in Grice (1989), pp. 213-23.

—— (1968), 'Utterer's Meaning, Sentence-Meaning, and Word-Meaning', in Grice (1989), pp. 117-37.

—— (1969), 'Utterer's Meaning and Intentions', in Grice (1989), pp. 86-116.

—— (1982), 'Meaning Revisited', in Grice (1989), pp. 283-303.

—— (1989), *Studies in the Way of Words*, Harvard University Press.

Schiffer, S. (1972), *Meaning*, Clarendon Press.